

問 7 Aは、『スッタニパータ』の一節である次の資料をBに示し、後の発言をした。Aの発言中の **a** ・ **b** に入る記述の組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **7**

資料

ある者たちは……他の教えに善は無いと説く。自分が依拠する教えが善であることを説きながら、それぞれ別々の真理に固執している。……論争が修行者たちの間に起きると、勝利の驕り^{おご}と敗北の落胆がある。人はこれを見て論争をやめるべきである。称赞の獲得以外に何にもならないからである。……称赞されると、……喜び、心高ぶる。心の高ぶりによって、彼が害されることになる。

A：資料を見てよ！ ブッダは、 **a** って言ってるよ。倫理の授業でブッダは **b** って習ったよね。資料はそれと関係してるのかな。

- ① a 論争は称赞を得ること以外には何の役にも立たず、称赞は心の高ぶりを生み出すことで人を害するため、人は論争すべきではない
b 自己への執着が苦しみの原因であると主張した
- ② a 論争の勝者には驕りが生じ、論争の敗者は失意に陥ることになるため、論争は勝者のためにも、敗者のためにもならない
b 身体を苦しめる修行によって真の自己を見いだせると主張した
- ③ a 論争は自らが真理であると思う事柄を批判的に吟味するためには有益であるが、勝敗に一喜一憂することは避けなければならない
b 自己への執着が苦しみの原因であると主張した
- ④ a 論争においては、自らが真理であると思う事柄を守るために、相手からの厳しい批判を受けるが、その苦しみに耐え続けなければならない
b 身体を苦しめる修行によって真の自己を見いだせると主張した